

氏名	吉 鷹 志 保
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 4697 号
学位授与の日付	平成25年 3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Perioperative plasma melatonin concentration in postoperative critically ill patients: its association with delirium (術後集中治療患者における周術期血漿メラトニン濃度と せん妄との関連)
論文審査委員	教授 氏家 良人 教授 内富 庸介 准教授 浅沼 幹人

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

せん妄は術後集中治療患者においてよく観察される合併症である。メラトニンの代謝異常はせん妄の発症機序の一つと考えられているが、周術期患者のメラトニン濃度と術後せん妄との関連を検討した研究はほとんどない。

このため我々は術後48時間以上の集中治療を要する40人の成人患者を対象に、術前からの血漿メラトニン濃度変化とせん妄との関連を検討する前向き観察研究を実施した。術後せん妄の診断はCAM-ICUを用いて術後1時間、術後1日目および2日目の午前8時と午後5時に合計5回施行した。血漿メラトニン濃度は術前、術後1時間、術後1日目および2日目の午前8時に合計4回測定した。

術後せん妄は13人(33%)に生じた。せん妄患者群と非せん妄患者群での比較では術前血漿メラトニン濃度には有意差を認めなかったが、術後1時間における術前値からの血漿メラトニン濃度の負の変化はせん妄患者で有意に大きかった(-1.1 vs. 0 pg/ml, $p=0.036$)。交錯因子の調整を行っても術後1時間の血漿メラトニン濃度変化は独立してせん妄に関連していた(odds ratio; 0.50, $p=0.047$)。

術後1時間における術前値からの血漿メラトニン濃度の負の変化は有意に独立して術後せん妄の発生に関連する。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、術後早期の集中治療患者の血漿メラトニン濃度を測定し、せん妄発生との関連を調べた前向き研究である。

40人の患者のうち術後せん妄がおこったのは13人(33%)で、術後1時間のメラトニン濃度が術前値から低下した患者でせん妄の発生が大きいことを示した。このような臨床研究は他にほとんど見られず、術後せん妄の発生の研究において価値のある研究と認められる。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。